

常磐每日新聞

日夕日一十月二十

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五號十二字 第一行 金五拾銭
 印刷所 常磐毎日印刷株式會社
 電話 六三〇番

自動車業者の 猛省を促す

「月曜是非」を讀んで
一愛讀者 投

昨日貴紙が月曜是非に掲載したる「都市美の妨ぐる湯本行自動車」の論説は最近吾人が関見したる記事中最も肯けいに價するものであり、又吾等の言はんとする處の宗廟なく洞破し盡して頗る痛快に感じたる次第である。故に此の所論は單に一片の警告のみに終らせず、以て自動車交通機關の機能を充分發揮せしめられん事を切に希望するものである。吾等日常自動車を利用する交通者に取りて都市美の觀念には餘り氣が付かなかつた、其れよりも先づ第一に痛感する事は、彼の片歩的遲緩自動車の「スピード」改善である。吾等自動車利用の交通者に取り何が困ると言つても、平湯本間の自動車位始末の付かぬ代物はない、平湯本間を五十人乃至一時間を要するに至つては全く沙汰の限りで物が言へぬ。宜なる哉、平町を通過するに三十分、緩停車場前に客待ち時間十分を要するのである又湯本町に於ても尙ほ且つ

然り、湯本を出發しての徐行振りに至つては天下一品である。吾人が歩行するよりも遅い自動車であるとするれば大体想像し得るのであるまいか。殊に比佐代議士前の道路に於ては「完全に「エンデン」を停止して客待ちをなすのである。又其の客待ちには頗る振つて居る彼の助手臺に乗車して居る小女は、いち早く自動車より飛び降り、更に十數間逆行し交通人を捉へては乗車の有無を誰何するのである何のことはないだるまの草もちが客を勧誘するのと

ではあるまいか。假令、急スピードのみに適用すると法規に規定して居ても交通者の實際的迷惑と被害はむしろ此の種の怠慢的湯本平間の自動車に於て痛憾するのである。「超スピード」には事故の發生せん事を恐れての制裁規定であるが「緩スピード」は四六時中常に乗客に迷惑と被害とを與へつゝある点に於て假令消極的被害なりと言へども多數交通者に與ふる害毒に至りてはより大なるものを否定する譯には行かぬ。幸ひ貴紙の警告的論説が其の筋の注意を喚起し、之れが進歩改良を見る事あらんか、たゞに都市美の妨害を除去するのみならず強て交通者を裨益する處甚大なるものあらん。

夫は各自動車業者が利己一点張りの目的的利益を去り、打つて一九となり相互客待の陋習を打破すれば立ち處に解決する問題である。實際問題として目前の彼等自動車業者には客の便益や公共的交通機關の使命等は樂にしたくも見出し得ざるを悲しむ次第である敢へて自動車業者の猛省を促し並せて監督官廳の注意を喚起するを得ば幸甚とする。

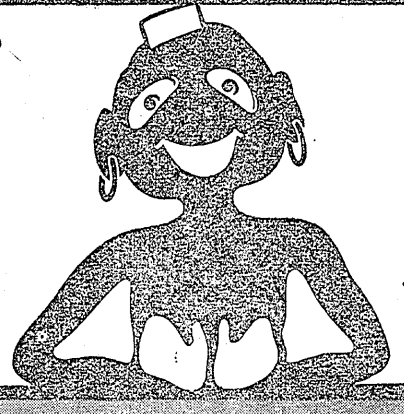
室内を改造して
石川の食堂...開始致しました
何卒御愛顧の程を...

- 食堂献立
- 牛なべ 御一人前 三十銭
 - 御飯 新香つき 十銭
 - 上酒 一本 三十銭
 - 特製石川の牛井 二十銭
- 外御好みに依り調製仕り候
女中御心付け御辭退致し候

ドーズ氣分の良い食堂で御手輕に
御家族同伴の上御試食下さいませ

忘年会、新年會、會合は
特に御相談に應まじす

牛肉 御料理 石川亭
割烹 電話 四三番



日長有難うございます
レストラン
平曾館
電話 624

外科 専門
花柳病科
木村外科醫院
電話 三〇九番
平町六丁目橋際
自炊入院の便あり

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二番)
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

夜間診療

胃腸病科 専門
松村性胃腸病醫院
(番七〇一町南町平)

内科 皮膚科
花柳病科 性病科

磐城セメント會社特約店
久全盛商店
電話 九番九九
磐城平町五丁目

良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は 生命なり

山形からの

出稼が漸次激増

平紹介所早くも斡旋に大奮

昨日早くも降雪を見た平地方の寒さからも想像される山形地方の冬季労働者は最近の降雪と極寒に弗々他地方に出稼を見せせてゐるが平職業紹介所へも申込激増の様相あり今十一日も六名の求職申込があつた、先月より今月にかけて同方面からの求職者は十一名で歳末を迎へて今後益々激増を見ると同紹介所は現在繁忙を來たしてゐる夏井川工事並に鱒豊漁に次ぐ豊漁で大忙の海岸地方求人にも振り當

新春神詣

平驛から特發

鐵道は早くも來春の神詣團體の募集を發表した

期日は二月二十一日平驛特發列車で出發二十六日歸著するが常磐線磐城越東線各驛から三等五百名を募り京都、大阪、奈良、山田、熱海を廻遊する料金は約廿八圓だと

初雪の粉飾!

昨年より十八日早い

十日夕刻から降り出した平地方の雪は今十一日午後も尙ちらつき午前七時の積雪量は三〇ミリに達し昨年の初雪は十二月廿九日で十八日早く降雪を見た。初雪の早い年は「豊作の兆」としてお百姓は喜んでゐるが、鱒大漁は景氣づく海岸筋は濱べ柏の乾燥が出来ずこの粉雪に面くらふ等初雪は濱通りに明暗の双曲線を描き出した

運動場擴張 第三小に縣屬來平 學落の

らず結局助役派が擁立した同村信用組合理事芳賀辨之助氏が當選した

教員籠球試合

警中職員俱樂部對平第二校職員の籠球試合は今十一日午後二時より平第二コートで行

はれる 巡回診療日割 巡廻診療班の無料診療日割は左の如く決定した

十一日川前 十二日荷略 夫 十三日貝泊 十四日石住

受難の江名製氷

縣同業組合と紛糾

注目される統制權利問題

江名漁業組合製氷部は去月以來縣下製氷會社の統制團體製氷工業組合より統制加入を再三交渉されてゐたが同組合は統制に加入することに依つて起る販賣上の欠点を理由に頑として應ぜず相當紛糾を見せ成行きを注目されてゐる

由來同組合に於ける漁業用水は年々廻航船の激増に連れて増加する一方であり爲に昭和七年農林省の漁村經濟更生施設費として支給された國庫補助二萬餘圓と三萬七千圓の低利資金を以つて現在の製氷部を創設したもので組合員には一年の各季を

江名漁港擴張概要

負擔の輕減を

町から再申請

江名漁港擴張二年に對し内務省は既報の如く七萬圓を工費額に當て内半額を國庫補助する事に決定し地元民

助に仰ぐべく近く申請書を提出する事になつた、内務省地元港灣で制定した同擴張事業内容は

工費概算五十四萬圓四ヶ年の繼續事業で延長三百四十米の防波堤を築設し水深三米以上の泊地約三萬六千五百平方(在來の船溜を合せ約四萬八千方米)を得新に水深四米及二米の岸壁百十二米を築造し陸上設備用地約四千七百平方米を堤築し在來船溜内の碇泊を安全にする爲め舊東防波堤の高さを増し將來必要に應じ港内泊地一萬六千方米陸上用地一萬九千五百平方米の増設を可能ならしめ尚波除堤の築設に依り安全なる小舟溜を提供するといふにあり

これに依ると現在の小名漁港は面目一新する筈

讀方研究教授 平第三小學校は本十一日尋常一年生の讀方研究教授を行ひ午後からの批評會を開いた

算術研究教授 平第二小學校は今十一日尋常一年三組佐竹訓導の算術科研究教授を行つた

平町人事 回生 出

△仲間町六九佐藤亞十郎氏 西女タカ子さん △胡澤澤二九長瀬亮明氏 四女悦子さん

△八幡小路七八草間宗雄氏 三男重雄さん 回婚 姻

△東京市澁谷區原宿一丁目八六後藤幸夫氏(三四)五町目六若松アイ子(二九)さん

△東京市小石川區鶴籠町五 一山田武氏(三三)隣町一 四高木幸子(一八)さん

△鎌田町四五本籍安達郡岩根村字關下大越啓至さん (一ツ) △立町一〇六六竹未夫さん (五ツ) △三丁目一六當時仙臺市二日町五二佐々木杜美子さん(一ツ)

△播磨小路七當時茨城縣新治郡土浦町三三三三桑原美智子さん(一ツ)

平職業紹介所報告 人を求める方

△女中 廿才迄 年給四十圓 △女中 卅才迄 給料面談十錢 △配達人 卅才迄 日給七十錢 △蒲鉾製造雜夫 廿五才迄 月給十圓

△女中 廿才迄 月給五圓 △農夫兼醬油配達 廿五才迄 月給六圓 △料理人 四十才迄 月給十五圓 △出前持 廿二才迄 給料面談

回 職を求める方 △集金人 卅四才 中三修 △鐵工 十八才 尋卒

特約販賣店募集

助川町 中村町 植田町 原ノ町 其他各地 一町一店(絕對遵守) 右開店御希望の方へ道具付にて最も有利に御相談いたします。

満洲パン

満洲羊かん始めました。 白土左行

補裝完成! 雨除、日除に 敷島のヒヨケを天

轉向の春から

往年の闘士を起用

製紙類販賣員に

平自營會事業進捗

財団法人平自營會の免因作
業場並びに養老院設置計畫
は其後資金關係で行惱みと
なつてゐるが年明けと共に
各顧問評議員等を總動員し
て資金募集に着手するが同
會では更に事業擴張の試み
として往年の常務炭炭界勞動
爭議に暗躍し轉向の上刑期
終了後更生の一途を辿る山
代吉宗、二片榮司、白土五
郎、大井川基司の四君を同
會販賣外交員に採用し宮城
刑務所製紙類を主として郡
下各町村役場方面へ販賣せ
しめることとなつた、尙こ
の試みの成績により一般免

囚にも適用する豫定である
と、右につき同會常任理事
吉岡董太郎氏は語る
本會の目的である免因保
護事業は目下種々の計畫
の下に着々進行中である
が取敢へず山代君外三名
を起用することにした宮
城刑務所製紙はまだこの
地方には使用されてない
が紙質は上質で市價の四
割安位故各町村役場等大
量消費の處で歓迎される
筈だ當方では事業趣旨普
及の試みとして此の舉に
出でたものである 云々

捕へたルンペン

意外！勳章持ち

平地方で窃盜を働く

西白河郡信夫村大字増見生
れ當時住所不定のルンペン
大戸猛夫(三)は去る四月中
郷里の同村大字新上地内馬
頭觀音堂に忍入り唐金製の
裝飾鈴一個(價格二圓)を窃
取したのを手始めに若松、
久之濱、四倉、内郷等各地
で窃盜を働いた外拾得横領
の餘罪あること發見、九日
内郷村大字高坂地内を徘徊
中平署に檢舉された

尙この男は勳八等瑞寶章
並に従軍記章を所持して
居りながら各地を荒した
ものであると
寒さ知らずの
暖房装置
平局二萬五千圓で
平郵便局は冬期繁忙期に於
ける従業員の能率増進を計
る爲め今回工費二萬五千圓

照明不完全で

貨物車へ追突

トラツクの助手重傷

小名濱町字横町三一栃木縣
那須町生れ自動車業笠井勝
(三)は去る七日午後十時頃
貸切で江名に行つた歸途同
町大字永崎字馬落前地内を
進行中ライトの照明が暗か
つた爲前方に故障で停車し
てゐたトラツクと衝突トラ
ツク助手江名町大字中之作
八一吉田金司方吉田好(九)

に全治一ヶ月の左大腿部打
撲並に下大腿部内側裂傷を
負はせたこと發覺業務上過
失傷害として平署で取調べ
てゐる

日より全市内に東京鐵道局
の宣傳ポスターを掲載した
が小荷物類の贈答品は歳末
になると一時に殺倒するの

坑夫の窃盜、好間村
大字北好間萩原炭坑坑夫佐
藤信夫(六)外一名は去る八
日同礦機械工場に忍び入り
銅線、砲金をその他六貫匁(價
格十圓)を窃取したこと發
覺檢舉されたが取調べの結
果同様窃盜八件を自白した

内郷村大字宮字田六二日
雇業朝吉二男手島秋雄さん
(六)は三日午後四時半頃自
宅六疊間でコタツに入つて
ゐるうち誤つて火中に轉落
隣家の鈴木ヒサさんに助け
出されたが全身の大火傷で
自宅で治療中であつたが遂
に死亡した

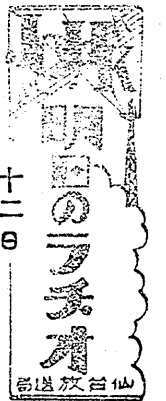
小川村議五名 辭表提出

助役推薦投票に破れて

小川村は助役決定村會を昨日開會、政友派柴崎佐之
吉氏が十三對七で當選したが、決戦投票に破れた佐藤
重男外四名の反對派村議は速座に辭表を箱崎村長に提
出し目下紛争してゐる

平裁判たより

△平町正月町十二瀬戸物商
岡野長四郎(五)は去る十月
十七日自宅で同町七丁目十
二會利菊松と家賃の事で口
論の未有合せた竹箒の柄で
同人の頭部を毆打全治一週
間の打撲傷を與へ傷害罪で
略式罰金二十圓に處された
△石城郡内郷村大字宮字代



今晩の部
後六、〇〇 子供の時間
名作物語「青い鳥」東
京放送童話研究会
後六、二五 基礎英語講座
四十一 岡倉由三郎
國策より見たる綿花問題
關桂造
後八、〇〇 音曲「唄」
旅「三遊亭萬橋
後八、二五 民謡 組曲
桃谷演奏所より中繼 加
藤貞子他
後八、五〇 浪花節「母」天
光軒満月
後九、三〇 時報 ニュー
ス 氣象通報 番組預告
明日の部
後七、〇〇 基礎國語講座
で遅くも來月廿五日頃迄に
届先を明瞭に書いて出して
貰ひ度いと

三十八 武内大造
前七、三〇 朝の修養「易
經」二 山口察常
前九、〇〇 衛生メモ
前九、一〇 料理献立「小
鳥の月見蒸」小林忠雄
前一〇、三〇 母の時間
「小學校を卒業する兒童
を持つ母へ」上級學校
のえらび方」文學博士田
中寛一
後〇、〇〇 木曜コンサ
ートキー中繼：銀座R
K〇 映畫會社試寫室より
中繼：「シルクハット」
後二、〇〇 シルクハット
後二、四〇 小學生の時間
尋四「唱歌」大和田愛羅外
後二、四〇 小學生の時間

尋五國語 お話と謠曲
「鉢の木」お話奈良島知堂
謠曲實生英雄
後六、〇〇 子供の時間
名作物語「青い鳥」三
東京放送童話研究会
後六、二五 講演「鐵道荷
物の常識」鐵道省運輸局
松本幸四郎外大勢
後七、三〇 講演
後八、〇〇 漫才「苦勞を
忘れて明かに」深田繁子
廣島洋々
後八、二五 舞臺劇 京都
南座より中繼：「天衣紛
上野初花」市川左團次
松本幸四郎外大勢

母親の不注意

コタツ火で焼死した幼児

内郷村大字宮字田六二日
雇業朝吉二男手島秋雄さん
(六)は三日午後四時半頃自
宅六疊間でコタツに入つて
ゐるうち誤つて火中に轉落
隣家の鈴木ヒサさんに助け
出されたが全身の大火傷で
自宅で治療中であつたが遂
に死亡した

飲み逃げと誤認

朋輩を二名で袋叩き

平町田町食肉商深谷義八 半頃内郷村大字高坂兎肉商
(三)外二名は六日午後五時
鈴木清(七)と平町新川町方

△赤井村大字高萩字下平坑
夫工藤清三郎(五)同村字出
入小野寺介川(三)は去る九
月より數回に亘り賭博開張
し賭博罪で略式罰金工藤が
六十圓、小野寺が二十圓を
言渡された



(著上談上) (演脚戯)

徳川十四代將軍家茂公の時老中の首席は安藤對馬守侯、この方は外交上について大いに腕をふるひました時に米國公使の代理ヒースケンといふものが外國奉行の堀織部正を西丸下の官邸に訪ひ

ヒースケン「今日はお願ひがあつて参つたが、是非、この事は承知して下さい」

織「それは何ういふ事であるかそれを聞かせよう」

ヒースケン「われ／＼は築地または麻布の寺院を旅館としてそれにて事務を執つて居るが、まことに手狭で困り居る、依つて高齡の御殿山を借受けて兩使館を建てたい、この事御承知下さい」

織「御頼みではあるが御殿山を貸しあたへることはならぬ」

ヒースケン「かの地に公使館を建設致す」

織「それもお断り致す、あれは非常の時の立ち退き場所として設けた別邸でござる、しからば貸與へること



ヒースケン

はなりません」

これを聞くとヒースケンはさつと顔色を變へヒースケン「奇態なことを聞くものだな、承はるに只今の將軍家は未だ一回もお濱御殿に行かれたことはないとのことである、さすれば

あの御殿は空家であらう、それを吾々が借り受ければとて仔細あるまい、かくとも貸すことはならぬと云はれるか」

ヒースケン「何だ、此も謝絶すると、それは何ういふ理由によつてか」

織「越中島は練兵場であるすでに兵士の休息致す宿舎も設けてある、それ故お貸し申すことはならぬ」

と三ヶ所ともビタリとはつた。この堀織部正は剛直な人物です、しかし頑固ではない。時勢にも通じて居るが外國使節の傲慢なるを憎み、少しでも日本の不利益と見えたことには何と申すもそれに應じません

またこの堀のゑらいことには、安政の元年北海道に参つて函館に要塞を築く事にした、安政四年から元治元年まで九ヶ年かゝつて、その工費四十一萬八千七百六十兩を投じて建設したもので、五陵城と命名した。後に榎本武揚君が幕臣と共にこれにこもつて官軍を引き受けて戦ひ、徳川武士の意氣地をしめした古戦場として今日もその形だけは残つてゐます。堀織部正はロシヤの野心をおさへるためにこゝに要塞を築いた。これらに依つて堀織部正の傑出して居つたことが判ります

さてヒースケンは三ヶ所とも拒絶されて大いに怒りヒースケン「足下は外國奉行ではあれど老中程の權威はあるまい、この事はすで

は考へてゐたがヒースケン「それでは越中島を貸して頂くことにする、彼の地ならばよろしからう」

織「それもお断り申す」

ヒースケン「何だ、此も謝絶すると、それは何ういふ理由によつてか」

老中の安藤對馬守侯にも申しては許可を得て居る、然るに足下が一存にてこれを拒絶などは不埒至極」

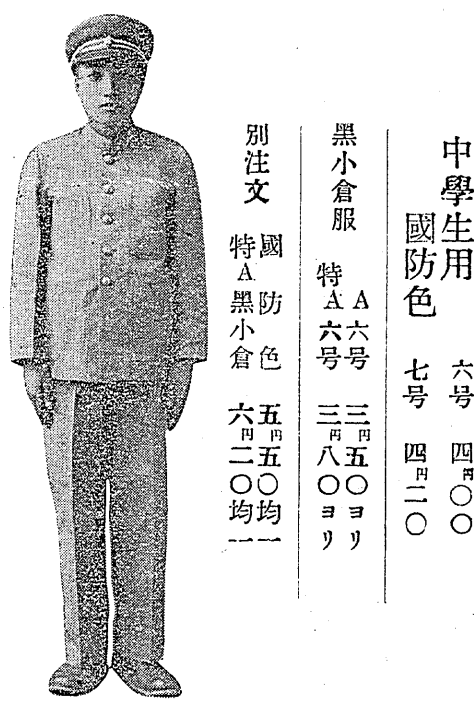
織「イヤ、自分は外國奉行

である、その外國奉行が外人の申し出でたことについて我國に取つて不利益と認めたと上は拒絶するは當然のことである」

ヒースケン「しかしかゝる小事から國と國との間に葛藤を生れる事などあらば貴國にとつて不利益であらう」

とかうおどしました。

冬の通學服賣出し



店服洋やかふ

中學生用 六号 四〇〇

國防色 七号 四二〇

黒小倉服 A六号 三三〇ヨリ

特A六号 三三八〇ヨリ

別注文 國防色 五五〇均

特A黒小倉 六二〇均

美味！ 芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

季節料理

よせなへ

- かきなべ 三〇
- はもなべ 同
- いかなべ 同
- ねぎまなべ 同
- あんこなべ 同
- ちりなべ 三〇
- あなごりなべ 三〇
- たらちりなべ 同
- 酢のもの 二〇
- 等々始めました何卒御試下さい

魚清食堂

平二番茶屋通り

御祝儀、御法事の仕出し 廉價に御引受け致します